

つまりコンフォートな別荘に必要なのはセンスです

だから、実際別荘を建てる！という時のために知っておきたいのは、名建築家と安心のパートナー。というわけで、小誌オススメの別荘情報をご紹介します！



©新報社 撮影：野中昭夫

別荘作りの哲学は巨匠、吉村順三から学べ！

「どうしたら楽しくなったり、気持ち良くなるかを考えて設計することが大切だね」これは、名建築といわれる別荘を数多く手がけた、巨匠吉村順三が残した言葉。豪華さよりも風景の中に溶け込み、そこに住む人たちが本当に心地よく過ごせることを大切にされた吉村の別荘造りは、まさに「極上コンフォート」を体現したものの。写真は吉村が通った軽井沢の私邸。



上質なライフスタイルをカタチにする現代の名匠、横河健の別荘

人気建築家の横河健氏も数多くの傑作別荘を生み出す、現代の名匠。「別荘はランドスケープとともに」をテーマにしながらも、住む人の目的を大事にした別荘造りが氏の持ち味。「極上コンフォート」を目指すなら、やはり知っておくべきひとりなのだ。まずはその魅力を作品集「KEN YOKOGAWA landscape and houses」(新報社刊)で堪能して欲しい。／参考物件



オトコの隠れ家的な別荘がいまや簡単に手に入るんです

別荘は時にオトコの隠れ家である。クルマ好きならガレージ、音楽好きならスタジオを完備。なんて別荘、夢ですね。ですが、富士五湖周辺の別荘を多数手がける富士急が、コンセプトヴィラシリーズと銘打って、なんと趣味に特化した別荘を分譲してるんです！写真はクルマ好きに向けたガレージハウス、なんとリビングに愛車が鎮座！ ©富士急行 不動産事業部



安心のブランド力でオーダー別荘が建てられる！

理想の建築家を見つけて、イチから自分で別荘を建てるのは、本当に素敵なことです。が、なかなかそんな時間も労力もない。なんて方にオススメしたいのが三井の森が提案する「設計士と建てる別荘プラン」。軽井沢や八ヶ岳山麓を中心に、20年以上別荘を手がけてきた経験と、安心のブランド力を味方に、お手軽なオーダーが可能。 ©三井の森

メリハリ上手なイタオヤは田舎町に自分の居場所があります

LEONに登場するイタリアオヤジさんたちは、みな必ずライフスタイルにメリハリをもっているんです。つまり都市と田舎を軽やかに使いこなしてる、わけです。



みんな自分らしく田舎ライフを楽しんでいます

ファッション博覧会のホワイトなどで活躍するブランドプロデューサーのアレッサンドロ・スカルツィさん(1)は、成功したいまま、生まれ故郷の田舎町リミニを拠点に世界を飛び回る。一方、「マラルンガ」の副社長レナート・バルダッサーリさん(2)は、ミラノに住みながら週末には350km離れたトスカーナで過ごす。そこでワイン畑やオリーブ畑を栽培して、自家製ワインを楽しむ。本物の「極上コンフォート」を教えてくれるのはトッズの会長兼CEOのディエゴ・デッラ・ヴァッレさん(3)のカプリの別荘。世界的な成功を収めながらも、自分らしく仲間と過ごす氏の別荘ライフは、本当にうらやましい限り！「PT01」の仕掛け人マリオ・マランさん(4)の山小屋はまさにアクティブな氏らしい、趣味のスキーを楽しみ、活力を養う場所。

別荘には浪漫とロマンスがあるんです

名作映画の舞台には、だから別荘が多いわけです。で、「極上コンフォート」な雰囲気を知るなら60年代のフランス映画。これホントにオススメ。



極上コンフォートな別荘映画ならコレです

上からアラン・ドロン主演の「太陽が知っている」。これぞ豪華別荘のブルーが印象的。マウロ・ボロニーニの「金曜日の別荘」は90年代ですが洒落た雰囲気。「ひと夏の情事」は60年代南仏の風景が楽しめます。



別荘ロマンスは悪女にご用心！
ジャンヌ・モロー扮するファム・ファタール(魔性の女)エヴァに翻弄され、すべてを失う男の物語。その舞台として別荘が印象的に描かれる「エヴァの匂い」1962年 フランス。

「極上コンフォート」を知るオヤジはなぜ「別荘」か？

モテるオヤジはメリハリ上手、が小誌の主張です。ゆえに「極上コンフォート」を知ることが重要と。で、気になるのが、それを具現化するためのツール。もうおわかりですよね。そう、それが「別荘」なんです。なぜか？ それは以下の文章で詳しく解説します！

二つ所に執着せずフィールドを広げよ！

ゲーテの「旅の歌」という詩のなかにこんな一節があります。「二つ所に執着するな」「世界はこんなに広い」。もっとと生活のフィールドを広げて活動せよ！ さすればどんな場所もうちになり、人生は楽しくなる！ というような内容なのですが、これ、まさにメリハリ上手なオヤジさんの生き方を啓蒙しているかのような詩ですよ。

都会の高級ホテルと郊外の美味い蕎麦屋の使い分けができる。都会で着るドレスシャツと、郊外で着るTシャツの使い分けができる。そういう振り幅の広いライフスタイルを楽しめるメリハリ上手が、真の「モテるオヤジ」である。と、本特集の冒頭で言いました。

イタリアオヤジは都市と郊外をなぜ、かくもスマートに使いこなせるのか？ それは、移動すること、つまり自分のフィールドを広げること、人生が豊かになることを体験的に知っているから、なんです。

で、そんな彼らのライフスタイルに欠かせないツールが、「別荘」というわけです。ヨーロッパ映画で、ロマンスが生まれる場所が決まって別荘なのも、そんな風が根付いている証といえるかもしれませんね。

極上コンフォートは大人のたしなみ

ディエゴ・デッラ・ヴァッレさんを覚えていませんか？ トッズの会長兼CEOであり、イタリアを代表する実業家。以前、貴重な別荘ライフを小誌で

Sense You Up! With a Finest Comfort

紹介させて頂いた、あの方です。世界中を分刻みで移動されている多忙な氏は、カプリに別荘を所有しています。そこはディエゴさん曰く「友人たちと、シンプルな時間をおくるための大切な場所」。

そのカプリへ取材に訪れた時、強く印象に残ったことがあります。それは元ケネディ所有のヨットでも、洒落た別荘でもありません。いまや世界的な企業のトップとなったディエゴさんを「ディエゴ」と親しげに呼ぶ旧友たちの姿と、友人を迎えるように我々に「スプリッツ」を差し出してくれたディエゴさんの自然体な姿でした。

やっぱり大事なものはセンスなんです

「子供の頃から悪ぶさげもしてきた」友人たちが、今も変わらずそばに居るから、本当にリラックスできる。そして、その場所にデイリーに移動しているから、本物の楽しさ。や、本物の美味いものを知っている。だからこそ、訪れる人に自然体で心のこもったもてなしができるのです。

そう、これがこそが「極上コンフォート」じゃないか！ と、ディエゴさんを見ていて気が付いたのです。そして、それはとてもパーソナルなもので、肌馴染み込んだその人なりのセンス抜きには語れないもの、なのだ。

つまり、これ、カントリサイドにホームがないと養われない感覚なわけなんです。だから「極上コンフォート」を知る世のモテるオヤジさんたちは「別荘」を持っていますね。

それは逆にいえば、洗練された都市生活者であり続けるため、でもあるわけなんです。で、これこそが我々が目指すべき「モテるオヤジ」のあるべき姿ではないかと、小誌は思うのです。